

# 中学校第1学年 技術・家庭「家庭分野」 学習指導案

比叡山中学校 教諭 伊藤由季

## 1. 単元名 伝統技術を用いたエシカルマインドの育成～絞り染めと藍染めの実践を軸にした巾着袋製作～

## 2. 単元の目標

- ・ 藍の濃淡、絞り染めの3つの技法とその造形的な特徴等をもとに、自分の思い描く模様や色、全体像を表現するための具体的な技法を身につける。 [知識・理解]
- ・ 藍染めや絞り染め等の伝統技術のもつ環境的なエシカル性、社会的・文化的なエシカル性に気づく。 [知識・理解]
- ・ 藍染めや絞り染めの表現の特徴等から伝統文化のよさや美しさを感じ取り、そこにエシカルな視点を加えて伝統文化の継承と創造について考える等して、ものの見方や感じ方を深めることができる。 [思考・判断・表現]
- ・ 伝統技術をきっかけにしてエシカルな視点で自らの衣生活や消費行動を見つめ直し、日常生活の中に課題を見出す。 [思考・判断・表現]
- ・ 伝統技術の持つ価値と現代の課題との接点に関心を持ち、伝統技術を取り巻く環境の変化を自分ごととして捉え、日常生活の中に伝統技術を取り込むことで課題解決の一端を担おうとする態度を養う。 [主体的に学習に取り組む態度]

## 3. 単元について

### (1)教材観

現代の大量生産、大量消費、大量廃棄の経済システムの中では、伝統技術は継承困難なことも多い。現に、滋賀県内で唯一「近江木綿正藍染」の技術を継承していた「紺喜染織」は2025年3月をもって廃業され、江戸時代中期から続く正藍染の伝統的な「紺屋」の灯が滋賀県から消えてしまった。伝統技術はその土地の暮らしや風土に根ざし、何世代にもわたり受け継がれ、文化を形作ってきた人類の叡智である。伝統技術を守り、次世代に伝えていくことは、環境的な持続性（天然素材と自然回帰、耐久性と長寿命化、素材のアップサイクル等）、社会的・経済的な公正性（適正な労働対価の確保、地域経済の維持、技術・知恵の継承等）、文化的な多様性の尊重（文化多様性という倫理的価値の尊重、歴史の語り部等）等の観点から持続可能社会の実現に不可欠な多面的な価値を創造し得る題材であると考えられる。

### (2)生徒観

生徒は、伝統技術は守られるべきものであるという意識は持っているものの、実際に伝統技術に触れる機会は多くなく、また、伝統技術は自分たちよりも上の世代のものであるという意識が強い。伝統技術にじっくりと触れる機会の乏しい大多数の生徒にとっては、その価値判断が難しく、身近に感じにくい存在である。また、日頃からトレンドやデザイン最優先のファストファッションを身につけているため、その消費行動は「オシャレ」「安さ」「手軽さ」「便利さ」を重視する傾向が顕著で、それらが出来上がるまでの背景をふまえたエシカルな価値について深く考える機会は少ない。

### (3)指導観

第1次〔絞り染め〕では、最終的に自分好みの巾着袋のサイズになるように真っ白い綿の布を切り出すところから始める。その布に絞り染めの図案を写し、なみ縫いをしたところで、①面、②輪郭、③線を表現するための技法をグループ毎に検討させる。技術の仕組みを構造的に把握することで絞る際のミス軽減を図るとともに、意図的にデザインを生み出すプロセスを経験することで、「遊び」としての染色ではなく、表現手段としての染色への認識を高めさせたい。

第2次〔藍染師嶋田拓真氏、三浦優佑氏との交流〕では、藍染の作品に触れる中で、染物製品の調和のとれた洗練された美しさを感じ取らせたい。また、技法や工程をお話しただく中で、藍染のもつ環境的なエシカル性、社会的・文化的なエシカル性に気づかせるとともに「作り手」の視点をもって考えさせたい。まだ若いお二人がなぜ藍染を生業として選択されたのかを考える中で、現代社会に求められる価値観と伝統技

術がもつ独自の魅力との関連に気づかせたい。

第3次〔藍染〕では、染めの回数による藍の濃さの変化や、藍の深い味わいのある美しさに体験を通して気づかせ、物づくりの面白さや感動を味わわせたい。また、染め付け直後の緑がかった色（空気に触れる前の色）が酸化によって鮮やかな「ジャパンプルー」に変化する様子を観察することで、伝統的な色彩感覚や化学的な知識にも触れさせたい。

第4次〔現代社会と伝統技術〕では、本来は藍で染められてたはずの「made in アジア」のジーンズが日本で1000円台で販売されている事実からものの出来上がるまでの背景に意識を向けさせ、ファストファッションの蔓延する現代人の衣生活を批判的に検討させたい。また、最終的には自分たちが消費者としてどうすることが「豊かに着ること」になるのかを考えさせたい。

#### (4)ESDとの関連性

- ・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）
  - 〔有限性〕 伝統技術そのものがエシカルである。（環境的な持続性、社会的・経済的な公正性、文化的な多様性の尊重等）
  - 〔公平性〕 脈々と受け継がれてきた伝統技術のエシカルな価値に気づき、次の世代に継承していかなければならない。
  - 〔責任性〕 伝統技術を継承していくためには、日常生活の中に伝統技術を取り込むことで課題解決の一端を担っていかなければならない。
- ・本学習で育てたいESDの資質・能力
  - 〔批判的に考える力＝クリティカルシンキング〕  
伝統技術＝継承すべきものといった前提を持たず、伝統技術が「豊かに着ること」に真に貢献するものであるかどうかを批判的に考える。
  - 〔多面的、総合的に考える力＝システムシンキング〕  
自分の生活を見つめ直し、「おしゃれ」「安さ」「手軽さ」「便利さ」等ばかりを最優先にしている本当に良いのか、「自分（買い手）よし」だけではなく「売り手よし」「作り手よし」「世間よし」「地球よし」「未来よし」の「六方よし」の視点を持って消費行動ができているかを考える。
- ・本学習で変容を促すESDの価値観
  - 〔人権・文化を尊重する価値観〕  
「ジャパン・ブルー」の伝統技術の背景にある環境への配慮、社会・文化的な持続性を含めて継承していかなければならない。
  - 〔幸福感に敏感になる、幸福感を重視する〕  
「オシャレ」「安さ」「手軽さ」「便利さ」といった価値観が「本当の豊かさ」「本当の幸せ」につながるとは限らない。
- ・関連するSDGs
  - 〔目標8〕 働きがいも経済成長も
  - 〔目標12〕 つくる責任つかう責任

#### 4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 絞り染めの基本的な防染原理を理解している。 ② 伝統技術を用いて自分の思い描く全体像を表現できる。 ③ 計画に沿って安全に実習を行うことができる。 ④ 伝統技術の現状と課題を理解している。	① 授業内の問い等について、自分の意見や考えを他者に伝えるように表現できる。 ② 伝統技術を含めたエシカルファッションとファストファッションを比較して、ものの出来上がるまでの背景を多角的に考察できる。 ③ 伝統技術が直面する課題に対し、エシカル消費の観点から解決策を判断し、提示できる。	① 授業内の対話や作業に積極的に参加している。 ② 伝統技術の持つ価値観と現代の課題との接点に関心を持っている。 ③ 伝統技術を取り巻く環境の変化を自分ごととして捉え、日々の消費行動や将来の生活に結びつけようと主体的に考察し、意欲的に意見交換している。

5. 単元の指導計画(全17時間) \*4人を基本としたグループワーク形式で行う(表中の■)

時	主な学習活動	学習への支援	評価 (△) 準備物 (・)
1	<p><b>裁断</b> 布を裁断する</p> <p>■ 58cm×30cmの布を二つ折りにし、巾着袋の用途を考慮しながらでき上がり寸法を決め、布にでき上がり線と裁断線を引いてから裁断する。 ■ 製作記録を書く。</p>	<p>・裁ちばさみの正しい使い方を意識させる。 ⑦片方の手で布を押さえ、刃を大きく開いて深く入れる。 ⑧刃の下側を机の面に当てたまま裁つ。</p>	<p>・授業プリント ・iPad ・布 ・裁ちばさみ ・チャコペン ・50cm定規 △ア③ △ウ①</p>
2	<p><b>絞り染め</b> 図案を決め、布に図案を写す</p> <p>■ 10種類の図案の中から自由に1つ選び、または組み合わせオリジナルのデザインを考える。 ■ 二つ折りにした布の間に図案を挟み、チャコペンでなぞって図案を写す。 ■ 製作記録を書く。</p>	<p>・布の向きや縫い代の位置に注意をして図案の位置決めをさせる。 ⑦わが下になるようにする。 ⑧縫い代を避けて図案を配置する。</p>	<p>・授業プリント ・iPad ・布 ・チャコペン ・図案 △ア③ △ウ①</p>
3	<p><b>絞り染め</b> 図案の線の上をなみ縫いする</p> <p>■ 大きな玉をつくるために、針先に糸を巻く方式で玉結びを練習し、最後に玉結びチャレンジを実施する。(5分間で玉結びを何個つくれるか) ■ 全ての線の上をなみ縫いする。 ■ 製作記録を書く。</p>	<p>・チェックシートを配信し、下の注意点を意識させる。 ⑦縫い始めと縫い終わりが同じパーツは一本取りで縫い、縫い始めと縫い終わりが異なるパーツは二本取りで縫う。 ⑧針目は3～5mm。 ⑨布の表から縫い始め、表で縫い終わる。 ⑩玉どめはしないし、残り糸も切らない。 ⑪1つのパーツは1回で縫い切ってしまう。</p>	<p>・授業プリント ・チェックシート ・iPad ・布 ・手縫い針 ・手縫い糸 ・糸切りばさみ ・ボンド △ア③ △ウ①</p>
4	<p><b>学び合い</b> 課題1 ・Aリングを絞り染めで表現したいとき、絞る工程において、どのように作業すれば①実、②葉、③茎を表現できるかを全員が納得できるように説明しなさい。 課題2 ・BトンボやC傘がDクマと比べてパーツ数が多いわけではないのに難易度が高い理由を、①どういう形のパーツを、②どうすることが難しいのか、を明らかにして説明しなさい。</p> <p>A  B  C  D </p>	<p>・3つの表現があることに気づかせる。(面、輪郭、線) ・「こう絞ってこう染めるからこういう柄が出る」という相互性を意識させ、今後の作業に見通しを持たせる。 ・疑問に思うこと、質問したいこと等あればベルを鳴らさせる。</p>	<p>・授業プリント ・iPad ・布 ・学び合いセット(ホワイトボード、ペン、クリーナー、ベル) △イ② △ウ①</p>
5 ・ 6	<p><b>絞り染め</b> 3つの技法を使って絞る</p> <p>■ 3つの技法名と何を表現するための技法かを理解する。 ○平縫い巻き上げ絞り(面) ○平縫い根巻き絞り(輪郭) ○平縫い引き締め絞り(線) ■ どのパーツにどの技法を使うかを考え、すべてのパーツを絞る。 ■ 製作記録を書く。</p>	<p>・手本を見せ、その最後に絞った部分を触らせて固さを確認させる。 ・チェックシートを配信し、手本と合わせて意識すべきポイントを明確にさせる。 ⑦小さいパーツから絞る ⑧パーツの中のパーツから絞る ⑨糸が切れないギリギリの力加減できつく絞る</p>	<p>・授業プリント ・チェックシート ・iPad ・布 ・手縫い針 ・手縫い糸 ・糸切りばさみ △ア③ △ウ①</p>

**藍染め** 「絞り染め、藍染の技法と藍染の魅力」  
ゲストティーチャー 藍染師 嶋田拓真氏・三浦優佑氏

**鑑賞** 嶋田さん、三浦さんの作品を鑑賞して、お二人に質問してみよう。  
①「いちばん好きな作品とその理由」  
②「制作技術に関して疑問に思ったこと」

- ①②をワークシートにまとめる。
- ①をグループ内で共有し、ゲストティーチャーに伝える。
- ②をグループ内で共有し、ゲストティーチャーに投げかけながら対話をする。
- ①②の内容をワークシートにメモする。

- ・ゲストティーチャーと生徒との対話形式を意識することで発問応答型の展開にし、知識の定着と深化を促す。
- ・「なぜそうなるのか」を筋道を立てて考えさせることで論理的思考力を養えるようにする。
- 【想定する質問】
- ? どうやって絞ったらこの柄が出るのか。
- ? この色はどのように出すのか。
- ? そもそも藍染とは何か。
- ? 藍染の工程を教えてください。
- ? 制作の過程で心がけていることは何か。
- ? 新しく挑戦してみたいことはあるか。
- ? どんな繊維を使っているのか。

**学び合い** 課題1  
・あなたは次の二つの事実を知りました。  
①紀元前2000年頃の古代エジプトではミイラに藍染の布が巻かれていた。  
②戦国時代の日本では武士は鎧の下に藍染の衣服を身につけていた。  
なぜ遠く離れた時代の異なる二つの文化において、同じ藍染が重要な役割を果たしていたか、その理由を2つ以上考え、自分の言葉で説明しなさい。  
課題2  
・滋賀県では江戸時代から大正時代にかけて盛んに藍染が行われていました。なぜ滋賀県で藍染が発展したのか、その理由を2つ以上考え、自分の言葉で説明しなさい。

- 課題1に取り組む。
- 課題1を全体共有し、深める。議論すべき点があればグループに戻し協議する。
- 課題2に取り組む。
- 課題2を全体共有し、深める。議論すべき点があればグループに戻し協議する。
- 配信されている授業プリントにホワイトボードの写真を撮って貼る。

- ・疑問に思うこと、質問したいこと等あればベルを鳴らさせる。
- ・ゲストティーチャーと生徒との対話形式を意識することで発問応答型の展開にし、知識の定着と深化を促す。
- ・藍染の魅力を多角的に考察させることで、単なる「美しい色」という認識を超えて、その本質的な価値への深い理解につなげる。
- 【キーワード】
- ◇ツタンカーメン ◇近江商人
- ◇抗菌・防虫効果 ◇近江上布（麻）
- ◇布の耐久性向上 ◇近江木綿（綿）
- ◇神聖 ◇豊富な水資源
- ◇ジャパンプルー ◇良質な水

**まとめ** 嶋田さん、三浦さんの藍染に込める思いとこれから

- ワークシートにメモする。

- ・ゲストティーチャーのお話を聞かせながら、循環型社会を含めた持続可能性へのこだわりや伝統技術の本質的な価値に気づかせたい。

**藍染め** 藍で染める

- 構想したイメージ色になるように染色する。
- ⊖布を染め液に入れる。（5分）
- ⊖布を染め液から出し、空気に触れさせ酸化させる。（5分）
- ⊖イメージする濃さに近くなるように、⊖と⊖を繰り返す。
- Ⓣ酢を入れた水につける。
- Ⓣ水洗いをして乾かす。
- 製作記録を書く。

- ・当日は体操服で登校させる。
- ・調理室の床にブルーシートを敷き、その上で染色させる。
- ・汚れやシミがついて使っていない布製品を染め直したい人は持ってこさせる。

- ・ワークシート
- ・i P a d
- ・学び合いセット（ホワイトボード、ペン、クリナー、ベル）
- △ア①④
- △イ①③
- △ウ①②③

- ・授業プリント
- ・i P a d
- ・布
- ・バケツ
- ・染め液
- ・ゴム手袋
- ・古タオル
- ・酢
- ・パラソルハンガー
- △ア②③
- △ウ①

**学び合い** 課題1  
・ミシン縫いした布をお互いに見せ合って、「美しく縫えていない部分」を5つ以上見つけ、なぜそれが美しくないのかという理由をそれぞれ考えなさい。

- ・授業プリント
- ・i P a d
- ・学び合いセット（ホワイトボード、ペン、ク

	<p>課題 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 1 で見つけた「美しく縫えていない部分」のそれぞれについて、縫い目を美しくするための具体的な方法（コツ）を考え、言葉で表現するとともに実際に縫って表現しなさい。</li> </ul> <p>● 3 パターンのミシン縫い練習をし、そのようすを動画に撮る。</p> <p>○直線縫い ○カーブ縫い ○角縫い</p> <p>● 配信されている「ミシン縫い動画・写真貼り付けシート」に動画と実際の縫い目の写真を貼り付けて整理する。</p> <p>● 課題 1 に取り組む。</p> <p>● 課題 1 が終わったグループは課題 2 に取り組む。</p> <p>● 配信されている「課題用シート（グループ学習ページ）」に写真を撮って貼りながら整理していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 2 では、撮影した動画から「美しく縫えなかった原因」を探り、そこから「美しく縫えるコツ」に気づかせる。</li> <li>・課題を通して「美しく縫えていない部分」が多数あったとしても「美しく縫えなかった原因」は限定的で、いくつかのコツを意識することで仕上がりのレベルが格段に上がることを理解させる。</li> <li>・疑問に思うこと、質問したいこと等あればベルを鳴らさせる。</li> </ul>	<p>リーナー、ベル)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習用布</li> <li>・糸切りばさみ</li> <li>・チャコペン</li> <li>・50cm定規</li> <li>・ミシン</li> <li>・ミシン糸</li> <li>・ボビン</li> </ul> <p>△イ①②③ △ウ①②③</p>
13 ・ 14	<p><b>ミシン</b> ミシンを使って巾着袋に仕立てる</p> <p>● 染め上がった布をアイロンで地直しする。</p> <p>● 次の工程順で作業する。</p> <p>○脇を縫う ○口あきを縫う ○袋口を縫う ○紐を通して仕上げる</p> <p>● 製作記録を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の学び合いで見つけ出した「美しく縫うためのコツ」を意識して作業させる。</li> <li>・ミシンの糸かけ動画を配信し、正しく糸かけができるようにする。</li> <li>・作り方手順書を配信し、教員の手本を見た上で、手順書を見ながら正しく作業させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・i P a d</li> <li>・布</li> <li>・糸切りばさみ</li> <li>・チャコペン</li> <li>・50cm定規</li> <li>・アイロン</li> <li>・アイロン台</li> <li>・ミシン</li> <li>・ミシン糸</li> <li>・ボビン</li> <li>・試し縫い用布</li> </ul> <p>△ア③ △ウ①</p>
15	<p><b>学び合い</b> 課題 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エシカル」の意味を調べ、「衣服」を用いたエシカルの具体例を5つ以上考えなさい。</li> </ul> <p>課題 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絞り染め」「藍染め」等の日本の伝統技術がエシカルであるかどうかを、①人への配慮、②社会への配慮、③地域への配慮、④環境への配慮の4つの視点からそれぞれ検討しなさい。</li> </ul> <p>● 課題 1 に取り組む。</p> <p>● 課題 1 が終わったグループは課題 2 に取り組む。</p> <p>● 課題 2 を全体共有し、深める。議論すべき点があればグループに戻し協議する。</p> <p>● 配信されている授業プリントにホワイトボードの写真を撮って貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に思うこと、質問したいこと等あればベルを鳴らさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・i P a d</li> <li>・学び合いセット（ホワイトボード、ペン、クリーナー、ベル)</li> </ul> <p>△イ①②③ △ウ①②③</p>
16	<p><b>学び合い</b> 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この藍染め（インディゴ染め）のジーンズがエシカルかどうかを2つ以上の視点から検討し、1分間でプレゼンしなさい。</li> </ul> <p>● 課題に取り組む。</p> <p>● 最後の10分で1分間プレゼンを行う。プレゼン中に議論すべき点があればグループに戻し協議する。</p> <p>● 配信されている授業プリントにホワイトボードの写真を撮って貼る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した通り、エシカルには①人への配慮、②社会への配慮、③地域への配慮、④環境への配慮の4つの視点があることを思い出させる。</li> <li>・疑問に思うこと、質問したいこと等あればベルを鳴らさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・i P a d</li> <li>・学び合いセット（ホワイトボード、ペン、クリーナー、ベル)</li> </ul> <p>△イ①②③ △ウ①②③</p>
17	<p><b>リフレクション</b> 個人レポート作成</p> <p>● 既習内容と撮った写真等を使って個人レポートを作成する。</p> <p>● 授業時に完成しなかった場合、春季休暇中の課題とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の3点を明らかにしたレポートにするよう伝える。</li> <li>○絞り染め、藍染めといった伝統技術は継承すべきものなのかどうか</li> <li>○自分たちが消費者としてどうすることが「豊かに着る」「豊かに生きる」ことになるのか（豊かさを定義づけした上で）</li> <li>○自分自身のライフスタイルを具体的にどう変容させるべきか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリント</li> <li>・レポート用紙</li> <li>・i P a d</li> </ul> <p>△ア④ △イ①②③ △ウ①②③</p>

## 6. 考察(10時間目終了時点)

### (1)成果

7・8時間目の藍染師との交流を経て、生徒たちは伝統技術を自分たちより上の世代のものという意識から、自分たちが継承し得る価値のあるものへと認識を改められたと感じている。

この授業の中で「なぜミラや武士に藍染が用いられたのか」という問いを発したところ、生徒たちは抗菌・防虫効果や耐久性といった実用的なエシカル性に自ら気づくことができた。これによって伝統技術が現代においても持続可能社会の実現に一役を買う価値を持っていることを認識できたと考える。また、藍の色の持つ神聖さや精神的な側面に触れる生徒も多くおり、藍には単なる機能性だけではなく、死者への祈りや戦を前にした精神の浄化といった「神と人をつなぐもの」としての役割があったのではないかとという考察も見られた。このように、伝統技術の価値を機能性と精神性の両面から多角的に捉えられたことは、ESDの資質・能力の中のシステムシンキングの面での成果であると期待したい。

この授業後に実施したふり返りで「授業前と授業後で『藍色』のイメージがどう変化したか」という問いを発したところ、授業前は大半の生徒が「濃い青色」と答えたが、授業後には「長い歴史の中で手間ひまかけて育てられた伝統の色」「人の工夫が詰まった身近で奥深い色」「決して青ではない」「環境に優しい色」「様々な国、地域、時代との関わりを表す深みのある色」といった答えが見られた。これらから、生徒が伝統技術そのものがエシカルであるということを一定理解できたことが推測でき、ESDの視点(有限性、公平性、責任性)を働かせることができた成果と考える。今後の学習を通してさらなる定着を目指したい。

9・10時間目の染めの工程後に実施したふり返りで「身の回りの布製品や伝統工芸に対する見方に変化があったか」という問いを発したところ、「ものができる工程にもっと関心を持たなければならない」「着なくなった服をすぐ捨てるのをやめて、もっと服を大切に着続けたい」といった内容が目立った。中学生という立場では自由に使える金銭や購買機会には限界があるため、「大切に着る、大切に使う」は中学生が今すぐ可能な具体的なアクションである。等身大のエシカル消費の第一歩が踏み出せたとすれば確かな成果であると考えられる。また、「身の回りの衣服は誰かが一生懸命に手間をかけて苦労してつくってくれていることに気づけたし、自分もここからさらに丁寧に作業して巾着袋を完成させたい」「伝統工芸はとても手間がかかるけれど、作り手が手間と気持ちを込めた分だけ美しい姿で返ってくるのがわかった」といったものも見られ、手間を惜しまずに作業した結果が美しさや愛着として結実することを実感できたことがうかがえる。「身の回りの布製品や伝統工芸を大切に、日本人としての誇りを持って守っていこうと思った」というものもあり、この授業が単なる技術の習得にとどまらず、文化的なアイデンティティ形成の一助となっていることを期待したい。

9・10時間目の藍での染めの工程を終え、絞った部分の糸を解く作業を参観しておられた他校の先生方からは「教育活動の中に当たり前に『本物』に触れる機会があると素晴らしい。単なる知識の習得を超えて、五感を通じて得る実体験を若いうちに数多く経験しておくことで自分の中に人生を豊かにするための基準が生まれる」との講評をいただいた。染めの工程で現れた鮮やかな藍色に素直に感動する姿、糸解きの工程で現れた藍色と白との美しいコントラストに素直に感動する姿は、その背景にある伝統技術や職人の思いを学び、受容したからこそ生まれたものであると思われ、「本物」に触れる機会を重視できた成果であると期待したい。

### (2)今後の課題

ここまでの学習で、伝統技術の持つエシカルな価値への理解は深まったと考える。しかし、伝統技術の素晴らしさを知っただけでは行動の変容にはつながらない。(1)成果のところ、「『大切に着る、大切に使う』は中学生が今すぐ可能な具体的なアクションであることに気づけた」と書いたが、ここから「じぶんごと」として捉えて自らの行動を変容させることには難しさがある。が、そこは15~17時間目の学び合いとリフレクションで、現代人の重視する「オシャレ」「安さ」「手軽さ」「便利さ」の先の未来を想像し、現代を批判的に見る視点を持たせ、「今の自分にできることは何か」「未来の自分にできることは何か」を考えさせることで現代人の価値観の問い直しを繰り返し行い、粘り強く価値観の変容を目指したい。

また、ふり返りの中には「縫って、絞って、何度も染めてとめんどくさい」といった感想もあった。伝統技術は現代の効率重視の価値観の対極にあると肌で感じた結果であり、とても重要な教育的プロセスであると考えられる。学習はまだ継続するので、その中で「めんどくさい」の向こう側にある「愛着」「物の真の価値」に目を向けさせ、「豊かに着るとはどういうことか」を問い続け、価値観の変容を促していきたい。



